

# 農作物生産情報 (平成29年9月)

## 気 象

(平成29年8月25日 仙台管区気象台発表 東北地方3か月予報より)

天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

## 水 稲

ほ場ごとの登熟の進み具合をよく確認して、適期刈取に努めよう！

### 1 出穂の状況

今年の管内全体の出穂最盛期（50%になった日）は8月5日で、平年並みであった。

8月中旬の低温のため、登熟は平年より遅れていると予想される。

表-1 市町別の出穂状況

市町名	出穂始		出穂最盛期			出穂終	
	本年	平年	本年	平年	平年差	本年	平年
五所川原市	8/3	8/2	8/6	8/5	遅1日	8/10	8/10
中泊町	8/2	8/2	8/5	8/4	遅1日	8/11	8/9
板柳町	8/4	8/3	8/7	8/6	遅1日	8/10	8/9
鶴田町	8/3	8/2	8/6	8/5	遅1日	8/10	8/9
つがる市	8/2	8/3	8/5	8/5	差なし	8/9	8/8
鱒ヶ沢町	8/1	8/1	8/4	8/4	差なし	8/9	8/9
深浦町	8/2	8/1	8/7	8/5	遅2日	8/12	8/10
西北全体	8/2	8/2	8/5	8/5	差なし	8/10	8/9

注) 出穂始は5%、出穂最盛期は50%、出穂終は95%に達した月日

### 2 刈取時期の判断方法

刈取りが早すぎると未熟粒の混入が多くなり、遅れると茶米や奇形粒、胴割粒などの被害粒が増加する。

登熟の進みには、ほ場差、地域間差があるので、表-2～6を目安に、ほ場ごとの登熟の進み具合をよく確認して、総合的に刈取時期を判断する。

表-2 出穂後積算気温からみた刈取適期の期間

まっしぐら	出穂後積算気温で960～1,200℃
つがるロマン	出穂後積算気温で960～1,150℃
青天の霹靂	出穂後積算気温で900～1,100℃

### <出穂後積算気温からみた刈取時期の予想（8月20日現在）>

主な品種ごとの出穂後積算気温でみた刈取適期の予想は、表-3～5のとおりである。

表-3 出穂後積算気温でみた「まっしぐら」刈取適期の予想

出穂期	960℃到達予想日	1,200℃到達予想日
8月 2日	9月16日 (45)	9月30日 (59)
8月 5日	9月20日 (46)	10月 5日 (61)
8月 8日	9月24日 (47)	10月10日 (63)
8月 11日	9月28日 (48)	10月14日 (64)

表-4 出穂後積算気温でみた「つがるロマン」刈取適期の予想

出穂期	960℃到達予想日	1,150℃到達予想日
8月 2日	9月16日 (45)	9月27日 (56)
8月 5日	9月20日 (46)	10月 2日 (58)
8月 8日	9月24日 (47)	10月 6日 (59)
8月 11日	9月28日 (48)	10月10日 (60)

表-5 出穂後積算気温でみた「青天の霹靂」刈取適期の予想

出穂期	900℃到達予想日	1,100℃到達予想日
8月 2日	9月13日 (42)	9月24日 (53)
8月 5日	9月17日 (43)	9月28日 (54)
8月 8日	9月21日 (44)	10月 3日 (56)
8月 11日	9月24日 (44)	10月 7日 (57)

表-6 ほ場ごとの刈取開始期の目安

籾の黄化程度	・「まっしぐら」・「つがるロマン」の場合 ほ場全体の籾が、90%程度黄化した時期 ・「青天の霹靂」の場合 ほ場全体の籾が、85%程度黄化した時期
枝梗の黄化程度	枝梗の2/3程度が黄化した時期
青未熟粒の混入割合	青未熟粒の混入率(1.9mm選別、重量比)が、10%程度まで減少した時期
籾水分	25～26%程度まで減少した時期

注1) 五所川原アメダス値を使用し、8月20日までは本年値、それ以降は平年値を用いて算出

注2) ( )内は、出穂期から予想日までに要した日数

注3) 出穂後積算気温でみた目安であり、実際に刈取るには水田の状況を見ながら総合的に判断する

#### <語句説明>

- ・出穂期：ほ場全体の40～45%が出穂した日
- ・出穂後積算気温：出穂日の翌日から毎日の平均気温を合計した値

## 『平成29年産あおもりの旨い米グランプリ』のお知らせ

- 1 出品対象者  
県内在住の水稻生産者
- 2 出品対象品種  
県内で生産された平成29年産の「青天の霹靂」、「つがるロマン」、  
「まっしぐら」
- 3 受付方法
  - (1) 申込受付  
平成29年9月29日（金）～10月13日（金）の間に申込書を西北地域  
県民局地域農林水産部農業普及振興室またはつがる分室へ提出
  - (2) 玄米提出  
玄米2kgを平成29年10月16日（月）～10月27日（金）の間に西北  
地域県民局地域農林水産部農業普及振興室にまたはつがる分室へ
- 4 その他
  - (1) 出品料は無料
  - (2) 出品は1生産者1点
  - (3) 出品した玄米の返却はなし
  - (4) 玄米水分16%以上の場合は審査対象外とする

問い合わせは西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室またはつがる分室へ！！

## りんご

十分味をのせた良食味のりんごを適期に収穫しよう！

ふじの肥大（県生育観測ほ：板柳町高増）は、8月21日現在、横径7.6cmで、  
平年（7.1cm）を上回っている。

8月26日現在つがるは、糖度が平年より高く、硬度及び着色指数が平年並、  
ヨード反応は平年よりやや低く、酸度が平年より低い。総合的にみて、熟度は  
平年よりやや進んでいる。

## 1 つがるの収穫

- (1) 熟度は平年より3日程度進んでいることから、収穫始めは9月7日頃からはと見込まれる。
- (2) 収穫が遅れて軟質化など品質低下につながるので、果肉の熟度に合わせて適期に収穫する。
- (3) 熟期が揃わないので、着色、地色、硬さなどを見て2～3回に分けて収穫する。
- (4) 収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油上がりが早くなるので、速やかに冷蔵施設に搬入する。
- (5) ストッポール液剤の散布後7日間、ヒオモン水溶剤の散布後4日間は収穫できないので注意する。

## 2 中・晩生種の管理

### (1) 「樹上選果」の徹底

収穫時までには随時、肥大の劣るものや果形の悪いもの、黒星病などの病害虫被害果、日焼け果などの障害果を摘み取る。

### (2) 着色手入れ

早くからの強い葉摘みは、鮮やかな色が着かないばかりか食味の低下につながるのので、葉摘みはやや着色が進んだ頃から始める。

#### ア 平年の実施時期

品 種	除袋時期	着色手入れ
早生ふじ	—	9月15日～10月1日
紅玉	—	9月15日～30日
ジョナゴールド <sup>®</sup> (有袋)	9月15日～25日	9月25日～10月5日
ジョナゴールド <sup>®</sup> (無袋)	—	9月20日～10月10日
陸奥	9月25日～10月5日	10月5日～10日
ふじ(有袋)	9月20日～10月5日	10月5日～25日
ふじ(無袋)	—	9月30日～10月25日

#### イ 除袋時の注意

- ・外袋をはぐときは、果実に密着している葉を摘み取る。内袋は果実の色が黄色みがかかった時、あるいは薄い縞が入った時(晴れた日が3～5日続いた後)にはぐ。
- ・日焼けを防ぐため、二度はぎ用二重袋の内袋をはぐ場合、または一度はぎ用二重袋をはぐ場合は、曇天日又は晴天日の10時～14時(果面の表面温度が高くなる日中)とする。

#### ウ 摘葉剤「ジョンカラープロ」を利用する場合

- ・「ふじ」のみを対象とし、収穫40～50日前(9月中旬頃)に500倍液を10a当たり400～700<sup>リットル</sup>散布する。展着剤ブラボー1,000倍を加えると効果が高まり、安定する。
- ・散布後30日間は収穫できないので注意する。
- ・散布後、低温や降雨が続くと効果が不十分だったり、極端な高温に合うと過剰落葉となるので、できるだけ温暖(平均気温:17～19℃)で好天が予想される時に散布する。

### 3 病虫害防除

「農薬はりんご園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。」

#### (1) すず斑病・すず点病対策

例年発生が多い園地や9月中旬に長雨が見込まれる場合は、中・晩生種の無袋果を対象に、9月15日頃にオーソサイド水和剤80～800倍、ストライド顆粒水和剤1,500倍、トップジンM水和剤1,500倍のいずれかを果実に十分にかかるように特別散布する。

なお、早生種に飛散しないよう注意する。

#### (2) 黒星病対策

黒星病の発生している園地では、病原菌の密度を下げるため、着色手入れのために葉摘みした葉はかき集め、土中に埋めるなど適切に処分する。

また、発生が多い園地では、秋季感染を防ぐため9月15日頃に行うすず斑病・すず点病の特別散布の際は、基準薬剤の中から、オーソサイド水和剤80～800倍又はストライド顆粒水和剤1500倍を選択する。

#### (3) モモシンクイガ対策

被害果は見つけ次第摘み取り、7日以上の水漬けなど適切な処置をする。

また、もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。

### 4 風水害対策

#### (1) 事前対策

台風等の気象情報に注意するとともに、防風網や支柱などを再度点検し、補強や取替えを行う。特に、幹などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害等を受けている枝や樹、幼木に対しては念入りに行う。

#### (2) 事後対策

ア 倒木した場合は、早めに起こして支柱で支える。

イ 枝が裂けた場合、回復可能なものは、その先の枝量を減らして、ロープで固く縛るか、かすがいなどで固定する。

ウ 浸水した園地では、速やかに排水する。

エ 冠水した場合、有袋果は直ちに除袋する。また、果実や葉に付着した泥は清水で洗い落とす。

#### — 農作業事故防止 —

はしごは登る前に、しっかり固定しましょう！

機械作業、注意一秒、けが一生！

# ぶどう

適正な管理で、消費者に美味しいぶどうを届けよう！

## 1 収穫時期の判定

### (1) スチューベン

ア 着色日は8月25日（鶴田町境）で平年より4日早かった。

イ 収穫は、果皮の着色だけで判断せず、糖度（18度以上）を測定するなど十分味がのったものを収穫する。

### (2) その他の品種

キャンベル・アーリーは糖度が上がらなくても良く着色し、また、黄色品種のナイヤガラ、ポートランド及びシャインマスカットは果皮色の変化が少ないため外観上から収穫時期を判定するのは難しい。

収穫に当たっては、必ず糖度を測定し、味を確かめる。

○平年の収穫時期と収穫時の目安

品 種	収穫時期	果皮色	糖度(%)
ポートランド	9月上旬	黄緑	14
キャンベル・アーリー	9月中旬	紫黒	14
サニールージュ	9月中旬	紫赤～赤褐	17
ナイヤガラ	9月下旬	黄緑	15
スチューベン	10月上旬	紫黒	18
シャインマスカット	10月上旬	黄緑	18

## 2 収穫時の留意事項

(1) 収穫は朝夕の果実温度が低い時間に行う。

(2) 完熟果でも降雨があった直後は糖度が低下するほか、輸送中の腐敗が多くなるので、なるべく晴天時に収穫する。

(3) 収穫した果実は病虫害の被害果や未熟果、小粒果等を除き、房の大きさや着色程度、品質等により選別する。

## 3 スチューベンの灰色かび病対策

**「農薬はぶどう園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。」**

(1) 長期貯蔵向けのスチューベンを対象に、フルーツセイバー 1,500倍を8月下旬～9月上旬に10a当たり250 $\mu$ g散布する。

(2) 単用で使用するとともに、果面汚染を防ぐため展着剤は使用しない。

(3) 使用時期は、収穫7日前までである。

## トマト

気温の低下に伴う裂果の発生を防ぐため、  
適正なかん水と追肥、保温に努めよう！

### 1 裂果対策

- (1) 裂果の発生を軽減するために、かん水は摘心後約30日まで行う。かん水量は1.5ℓ/株とし、かん水間隔は1～2日おきとする。
- (2) 追肥が多いと裂果が多くなるため、追肥は最終花房のトマトトーン処理終了後までとする。ただし、肥料不足の場合は、9月中旬以降1～2回追肥を行う。
- (3) 気温の低下とともに裂果が多くなるので、夜温が15℃を下回る場合は保温に努める。

### 2 エスレル処理

- (1) 10月中旬以降は気温が急激に低下し着色が進まないため、9月下旬から白熟期になった果房ごとにエスレル10を散布して着色を促進する。

散布時期	倍数	散布液量	散布回数
9月25日～10月5日	300倍	5ml / 1果房	1果房につき1回

- (2) 散布時や散布後2～3日間は、ハウス内の気温を30℃以上にしないよう注意する。

### 3 病害虫防除

灰色かび病、疫病、葉かび病、すすかび病、うどんこ病、タバコガ類、オシツコナジラミの防除を行う。

## 大豆

病害虫防除をしっかり行い、収量、品質を確保しよう！

### 1 病害虫防除

9月上旬までに、紫斑病、マメシンクイガの防除を行う。

### 2 その他の管理

- (1) ほ場の滞水で収穫作業に支障が生じないように、溝切りなどの排水対策を行う。
- (2) 汚粒の原因となる、わい化病株や雑草の抜き取りを収穫前までに行う。

## 小麦

ほ場整備、排水対策をしっかり行い、生育を確保しよう！

### 1 ほ場整備

転作田では、雪解けが早く排水が良いほ場を選び、明きょや弾丸暗きょを施工し、融雪水の排水対策を行う。

は種精度、出芽率、除草剤の効果向上のため、ロータリーで碎土して、ていねいに整地する。

### 2 施肥

基肥は成分で、10 a 当たり窒素 7～8 kg、リン酸 12～15kg、カリ 9～10kg を基準に、地力、連作年数、前作を考慮して増減する。

また、土壌pH6.0以下では生育が悪くなるので石灰資材を施用し、土壌酸度を矯正する。特に転換畑では積極的に行う。

### 3 種子消毒

雪腐病対策として、種子消毒を行う。薬剤は前年の雪腐病発生状況に合わせて選択する。

### 4 は種期

は種適期は9月15～25日であり、は種量はドリル播きで10 a 当たり 8～10 kgを基準に、は種時期、地力に合わせて増減する。

### 5 雑草防除

- (1) 除草剤は発生する雑草の種類、生育に合わせて、効果が出るように使用する。
- (2) 茎葉処理剤は、雑草の種類、発生状況に合わせて使用する。

## 花き

温度管理を徹底し、高品質な花きの生産に努めよう！

### ◆キ ク◆

#### 1 今後の作業

- (1) 苗床は、日当たりと排水の良いハウスに作る。親株を伏せ込む2週間前に、1アール当たり完熟堆肥を250～300kg、窒素、りん酸、カリを成分で0.5～1.0kg施用する。
- (2) 親株の伏せ込みは、健苗を確保するため、親株には病虫害の被害のない健全なものを選び、10月下旬までに行う。
- (3) 秋ギク「神馬」の11月出荷栽培では、消灯後45～55日で開花するので、出荷時期に合わせて消灯日を決める。また、品質向上のために再電照を行う。

## 2 病害虫防除

白さび病、アブラムシ類、ヤガ類等の発生に注意し、適期に防除する。

### ◆トルコギキョウ◆

#### 1 今後の作業

- (1) 抑制作型では、日中25℃を超えないように管理し、夜温が13℃以下となったら、夜間はハウスの換気窓を閉める。発蕾期以降は、固く仕上げるため、かん水を控えめにする。
- (2) 越冬作型では、9月中旬までには種を行い、発芽までは、20～25℃、発芽後は15℃前後を目標に管理する。定植は11月上旬頃までに行う。

## 2 病害虫防除

灰色かび病、アザミウマ類等の早期発見・早期防除に努める。

### ストップ！農作業事故

秋の農作業安全運動実施中！ 平成29年8月15日～10月31日

- ・ 機械操作や高所作業等においては、ヘルメットを着用する。
- ・ 携帯電話を所持するなど、家族・消防等へすぐに連絡できるようにする。

### 農薬の適正使用と隣接農地への飛散防止に十分気をつけましょう

- ・ 使用した農薬などは、河川等へ絶対捨てないでください。
- ・ 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。
- ・ 農薬は鍵のかかる専用の場所に保管し、管理を徹底しましょう。